淀川水系流域委員会殿

（ダム長寿命化問題） 堆砂掘削には「灌漑容量」も活用すべき

平成１９年１２月２３日
「関西のダムと水道を考える会」
（代表）野村東洋夫

私達は先般の意見書（№892）で、高山ダム・青蓮寺ダムにつき、大阪市などの上水の利水容量を活用することで川上ダム「長寿命化容量」は不要となることを述べましたが、この他に、各ダムの不特定容量の中の灌漑用水のための容量も活用すべきと考えます。何故なら、堆砂掘削を行う非洪水期は農地の非灌漑期とほぼ重なりますが、非灌漑期における農水取水量は例年、その水利権量の２０％程度にまで低下するため、各ダムの不特定容量から河川維持水のための容量を除いた灌漑容量については、この時期、大幅な余剰（不使用）状態となるからです。
私達はこの点を詳しく検討すべく、必要な基礎資料を現在、河川管理者に開示要請していますが、取り合えず手元資料で凡その概算をしてみた所でも、

高山ダム　1500 万ｍ３以上
青蓮寺ダム　200 万ｍ３以上

の容量が不使用となります。
これに先般の意見書（№892）で示した利水容量に由来する値を加えますと、

高山ダム　1500 万 m3＋1665 万 m3＝3165 万 m3
青蓮寺ダム　200 万 m3＋ 970 万 m3＝1170 万 m3

となり、どちらも川上ダム「長寿命化容量」830 万 m3 を遥かに超える値となります。
つまり、「上水」同様に非洪水期に大幅な不使用状態にある「農水」の容量を活用してダム貯水池の水位を下げれば、川上ダム「長寿命化容量」を設けるより遥かに大きな水位低下が得られる訳です。
河川維持水は残し、水利権の変更も無く、ただ単にこの時期に余っている上水と農水の貯水池容量を活用しようというだけの話ですから、利水者の了解は必要としても実質的には誰にも迷惑を掛けない方法です。
私達には河川管理者がこの事実に目を瞑っているとしか思えません。

※ 比奈知ダムにつきましては、まだ詳しい検討をしておりませんが、上記とほぼ同様のことが言えるのではないかと考えております。
※ 布目ダムにつきましては、奈良市上水の容量が最も大きな割合を占めており、しかもその大部分をダム直下で取水するため、川上ダムに限らず、そもそも他のダムで代替することが困難なダムと考えております。（以上）